

情報たっぷり スポニチ県版

Fresh! 信州

金の卵 15人

創部3年目夢の全国へパワーUP

都市大塩尻

女子バレー部

創部3年目を迎えた東京都市大塩尻高女子バレーボール部がパワーアップした。昨夏の全国中学大会を制した裾花中の6人など、全日本中学選抜メンバーを含む県内外から有望株15人が入学。1月の県新人を制した上級生もうかうかできない状況だ。今季初戦となる29日の中部日本6人制総自選権高校生の部県予選(塩尻市)は初優勝でさらなるレベルアップをアピールしたいところ。

総勢29人29日待望の今季初戦

東京都市大塩尻の練習が変わった。午後5時30分を過ぎ、他の運動部が引き揚げると体育館を独占。倍増の29人となった女子バレー部員が館内いっばいに躍動する。

「これだけ集まってくれたのだからまず全国に出たい。インターハイで力試ししたい。今年の1年生は北信越レベルでも勝って当たり前。上級生と比べて意識の差がある」。墨坂中、裾花中を率いて全中制覇4度の岡田隆安監督(62)は3年目を迎える。にぎやかにになった光景に目を細める。

県内外から集まった1年生は15人。1歳80級はいないがスピード、ジャンプ保証がなくなった上級生も

昨夏全中Vの裾花勢、全日本中学選抜らズラリ

必死。主将の小坂亜未(3年)は「レベルが凄く上がった。外されるかもしれない危機感がある。一人一人がボールを触る機会が減ったので一本一本集中しないと」。

29日の中部日本県予選のベンチ入りは14人。「1年生は8人ぐらいい入りそう」と岡田監督。激しい競争をくぐり抜けたメンバーが目指すのは初優勝だけだ。(高地 浩志)



強力新人15人が入部、日本一を目指す都市大塩尻女子バレー部

○：新しく加わった練習メニューが「3対3」だ。通常より狭い8対コートを使い攻撃はバツクコートからのみ。「叩き落とすだけのスパイクをしなくなり、体重を乗せた打ち方も覚える。レシーブ練習になる」と岡田監督。Vプレミアの男子が多用する高度なメニューだが、東京都市大塩尻のメンバーは楽しみながら取り組んでいる。